

2021年度地域文化演習・地域文化調査法・地域調査入門・地域環境演習・地域環境調査法のテーマ・内容・調査地域一覧（2021年3月22日現在）

地域文化演習（3年選択必修）

| 教員名 | 記号 | 演習テーマ | 演習内容等 | 曜・時限 |
|------|----|---------------------|--|------|
| 小田匡保 | D | 歴史地理・文化地理の論文講読と地域調査 | 前期は、発表担当を決めて、歴史地理・文化地理を中心に人文地理学の論文講読を行なう。後期は、10月に3泊4日で地域調査を行なう。場所は、千葉県館山市を予定している。テーマは、農業、漁業、商業、交通、観光、町並みなどグループで設定する。最終的には調査報告書をまとめる。現地調査ができない場合は、統計データの分析を行ない、それをもとにレポートを執筆する。 | 水・5 |
| 橋詰直道 | E | 地方都市の自立とまちづくり | 都市や住宅地に関する人文地理学の論文を前後期、複数回レビュー発表することで、地域研究の課題や調査方法を学ぶ。夏休み中には、各自地域調査をし、その調査レポートを9月に提出してもらう。また、後期現地調査が可能になれば、9月又は10月に3泊4日で関東甲信越地域の中小都市を事例に、ゼミ合宿形式の地域調査を行い、地域調査の方法や調査結果の集約・分析手法、まとめ方などを学び、調査報告書の作成も行う。4月の授業で文献レビュー発表やレポート提出及び現地調査の日程を決める。前・後期に各1度、日曜都内日帰り巡検も行う。オンライン授業になる可能性もあるが、授業・調査ともに真剣に取り組む学生に限る。また、私は2022年度の4年卒論演習(ゼミ)は持っていないので、くれぐれも注意する事。 | 火・5 |

地域文化調査法（3年選択必修）

| 教員名 | 記号 | 調査法テーマ | 調査地域 | 調査期間 | 調査内容等 | 曜・時限 |
|-------|----|---------------------|----------------|------------------|--|------|
| 瀬戸寿一 | C | 情報化とまちづくり | 北海道室蘭市 | 9月下旬～10月中旬（3泊4日） | オープンデータに取り組んでいる北海道室蘭市を対象に、社会生活や産業活動の変化・地域構造や機能の変化、土地利用や景観変化、行政・市民における課題などに留意しながら、グループごとに調査テーマを設定する。前期は、対象地域の特色についての基礎学習や、文献調査・レビューの討議を繰り返す。現地調査では、景観調査・聞き取り調査・まちの情報化（デジタルデータの利用と作業）などを行う。現地調査後は得られたデータや統計資料などからGIS分析や地図化を行い、グループごとに12月までに報告書を作成し発表会を行う。現地調査が困難な場合は、GISによるデータ分析に取り組みつつ、日帰りで景観調査などを行う。 | 水・5 |
| 須山 聡 | D | 奄美大島の地域性 | 奄美大島 | 6月下旬または7月上旬 | 教人のグループに分かれて、奄美大島の地域的特徴を明らかにするための地域調査を実施する。現段階で想定しているテーマは世界自然遺産登録、空き家活用、ふるさと納税、エコツーリズムなどであるが、希望に応じて設定する。最終的に報告書「奄美大島の地域性18」を作成する。期間は7日間を予定している。 | 水・3 |
| 高橋健太郎 | E | 農山村の暮らしと産業 | 長野県と新潟県の境界地域 | 後期を予定 | コロナ・ウイルスの影響により、例年のような聞き取りは困難なので、主に土地利用や施設を調査する予定。東京近郊での調査に変更する可能性もある。主なテーマは、自然を活かした暮らしの特徴と変容、農産物のブランド化、都市・農村交流など。事前準備や文献講読から報告書作成まで取り組む。村落地理学を履修した人は、今年度にA・Bとも履修のこと。 | 月・3 |
| 土谷敏治 | F | 地方都市の公共交通問題と新たな取り組み | 茨城県ひたちなか市と周辺地域 | 10月上旬 | 地方都市の交通、人口、産業等に関する文献の講読を通じて、調査計画の立て方、調査・研究の方法、結果の分析方法、論文の書き方などを学習する。その成果を踏まえて、実際に調査・研究計画の立案し、資料の収集、現地調査、調査結果の分析、調査報告書作成を行う。調査地域は、地方鉄道の延伸計画が進行しているひたちなか市、BRTの整備が進む日立市と周辺市域を予定している。 | 火・5 |

地域調査入門（2, 3, 4年選択）両専攻共通

| 教員名 | 記号 | 入門テーマ | 調査地域 | 調査期間 | 調査内容等 | 曜・時限 |
|------|----|-----------------|-------------|-----------------|---|-----------|
| 田中 靖 | A | 身近な自然とGIS | 関東地域数カ所 | 週末（土曜日）に複数回 | 自然地理学の現地調査ではどのような視点で景観を観察しているのかを学ぶ。事前学習（文献調査、GISによる地図作成）と週末（主に土曜日）日帰り巡検を複数回実施。巡検地は受講者との話し合いによって決定。現地調査が難しい場合にはGISによるデータ解析を中心とした内容とする。 | 前期 土・2 |
| 小野映介 | B | 久米島の人と自然 | 沖縄県島尻郡久米島町 | 6月21日～23日（2泊3日） | 沖縄本島の西約100kmに位置する久米島は、火山起源でサンゴ礁が発達する美しい島である。稲作やサトウキビ栽培などと土壌の関係、土壌流失がサンゴの生育に与える影響などを事例に土地利用や環境問題に関わるフィールドワークの基礎を学ぶ。 | 前期 金・4 |
| 平井幸弘 | D | 河川下流・海岸地域の自然と環境 | 高知県高知市 | 11月初・中旬に2泊3日 | 高知平野を中心に、鏡川・浦戸湾および物部川の水辺をめぐる災害や環境問題、地域資源の持続的利用、新しいツーリズムなどに関して、地理学の様々な視点から現地調査、および関係機関、団体、個人を対象に聞き取り調査・質問票調査を実施。 | 後期 火・4 |
| 須山 聡 | E | 豊年祭の参与観察 | 奄美大島宇検村佐念集落 | 8月中旬 | 佐念集落の豊年祭の準備・運営に参加し、観察内容を記録する。佐念集落は人口30人あまりで、祭りの運営を担う若い住民が少ない。豊年祭の存続のためにも、集落外からの支援が不可欠である。お客さんではなく、住民といっしょに豊年祭に参加することで、集落の特徴や社会構造が理解できる。期間は4日間を予定している。 | 後期 木・3 |

地域環境演習（3年選択必修）

| 教員名 | 記号 | 演習テーマ | 演習内容等 | 曜・時限 |
|------|----|------------------|--|------|
| 田中 靖 | D | 測量/GIS/RSによる地域調査 | 室内調査と現地調査の両面から地域環境調査の方法を学ぶ。主な調査テーマとして房総半島南部の地震性地殻変動を取り上げる予定（受講者と相談の上決定）。調査は班別に行う。キーワードは、①地形、②GIS、③ドローン測量、④GNSS測量、⑤プログラミング、⑥衛星画像解析。 | 月・3 |

地域環境調査法（3年選択必修）

| 教員名 | 記号 | 調査法テーマ | 調査地域 | 調査期間 | 調査内容等 | 曜・時限 |
|------|----|-----------------------|---------------|------------------|--|------|
| 江口 卓 | A | 屋久島の自然と環境 | 鹿児島県屋久島町 | 10月または11月を予定 | 屋久島の気候についてテーマを決め、気候データの解析を中心に進めます。後期に、屋久島の自然と環境について調べたうえで、現地調査を行います。最後に、全部の調査結果を報告書としてまとめます。 | 水・4 |
| 鈴木秀和 | B | 浅間山北麓の自然と人との関わり | 群馬県長野原町・嬬恋村周辺 | 6月下旬か7月下旬に3泊4日 | 浅間山北麓の自然環境（地形・植生・水文など）を中心に、それを活かしたツーリズムや自然災害への対応について調査を行う。班別に調査テーマ決め、地形・植生調査は地元専門家に協力を仰ぎながら実施する。また、観光や防災に関する調査では、観光客や地元住民へのアンケート調査、関係機関へ向う聞き取り調査を行う。 | 水・2 |
| 鈴木重雄 | C | 秩父盆地の自然環境と土地利用 | 埼玉県秩父盆地 | 6月下旬の3泊4日 | 秩父盆地において山地斜面や溪畔に形成される自然植生や、河岸段丘上の土地利用・植生を観察し、各自、調査テーマを決め、現地調査を実施する。現地調査前の授業では、対象地域や調査方法に関する文献の講読を行い、調査計画を立案する。現地調査後は、調査結果をまとめ、報告書の前稿の作成を行う。 | 火・4 |
| 平井幸弘 | E | 湖沼・内湾域における環境問題とワイズユース | 長崎県大村湾および大村市 | 10月初・中旬に3泊4日 | 長崎県の大村湾・大村扇状地を中心に、環境問題や災害、地域資源の持続的利用、新しいツーリズムなどに関して、主に自然地理学的な視点から現地調査、および関係機関、団体、個人を対象に聞き取り調査・質問票調査を実施。 | 水・4 |
| 小野映介 | F | 津波被害の軽減のための取り組みと課題 | 北海道釧路市 | 10月18日～21日（3泊4日） | 太平洋に面する釧路平野では、今後の海溝型地震の発生に伴う津波の襲来が想定されている。将来の津波災害から住民の生命と身体の安全を確保するための各種取り組みと課題について、フィールドワークをもとに明らかにする。 | 水・4 |

* 演習と調査法、地域調査入門と演習（または調査法）を履修することも可能です。履修希望者が多い場合は、人数を調整することがあります。

* 新型コロナウイルス感染者や濃厚接触者、発熱・咳等の症状のある学生は、4/2の振り分けには無理に出席せず、事前に地理学科に申し出ること。

メール: chirioffice[at]komazawa-u.ac.jp 電話: 03-3418-9259 (地理学科事務室)